



相ノ木っ子だより

令和2年度
学校だより
1月号
上市町立相ノ木小学校



引き継がれる相ノ木っ子の思い

昨シーズンと違い、2020-2021シーズンは、北陸本来の厳しい冬を迎えています。大雪警報発令・臨時休業になる程の積雪もありました。学校では朝登校してきた6年生が、張り切って児童玄関前、正面玄関前の広いスペースを一生懸命に除雪しています。スノーダンプやスコップを使って友達と協力しながら雪と格闘する6年生の様子は、どこか楽しげです。そして、「わたしたちが6年生だ」と言わんばかりの自主性や根気強さが見られます。昨年度の6年生も除雪に張り切っていて、12月頃からずっと楽しみにしていたのですが、あいにくの暖冬で作業が全くできませんでした。前6年生は、相当悔しい思いをしていました。冬の除雪作業は、6年生としての役割を果たす大事な機会であり、ある種のステイタスを示す場でもあるわけです。

歴代の6年生の姿を低学年の頃から見てきている子供たちは、「6年生がしなければならない大切な仕事だ」「6年生になったらできるんだ」といった羨ましさや憧れが入り混じった思いをずっともっています。ですから、いざ6年生になると、冬の積雪時に朝登校したらすぐに除雪作業に取りかかりますし、「もういいよ」と言われるまで黙々と続けています。そんな素晴らしい思いと行動が綿々と引き継がれていること、相ノ木っ子の素直さとたくましさに関心するとともに、何だか誇らしい気持ちになります。

相ノ木小学校には、こういった伝統（相当以前から続いている歴史の長いものもあれば、数年の短いサイクルのものもありますが）が他にもたくさんあります。相撲大会やけん玉大会での白熱した勝負や卓越した技もそうでしょう。朝や帰りの職員室へのあいさつや挨拶運動への積極的な参加もそうでしょう。これらは、誰かが直接的に語ったり教えたりする学びではなく、人と人とのつながりによって生まれる、人の姿を見て自然に気づいたり感じたりする学びです。周りから感化・習慣化され、体感しながら育んでいくものですから、自分の体や心に沁みつき、きっと大人になってもあまり忘れることはないでしょう。オンライン授業等では学べないものであり、今のコロナ禍にあって余計に大事にしなければならないですし、より一層わたしたちが温かく見守って支援していくべきものだと思います。そして、そういった学びが行えることこそ、学校で異学年が一堂に介するよさであり、6年間の長きにわたって歩む意義なのではないでしょうか。

デンマークの哲学者キルケゴールは、次の言葉を残しています。

喜びは伝わるものであり、

だから喜びを教えるということにかけては、

みずから喜びにあふれた者に勝るものはいない。



きっと歴代の相ノ木っ子たちは、たつぷりと「学ぶ喜び」を味わい、味わっている自身の姿を見せることで、自然とその喜びや充実感を後輩たちに伝えてきたのでしょうね。以前お話したことですが、わたしも幾人かの恩師の姿や考え方に感銘を受け、憧れをもち、この職に就きました。引き継がれる相ノ木っ子の思いに上級生への憧れや羨望が含まれているならば、子供たちのこれからの歩み、夢や希望に何らかの影響を与えることになるかもしれません。そう考えると、人との関わりによる学びが子供たちの思考や決断の大きな原動力になり得るでしょうし、家族の方やわたしたちもそんな思いを子供たちにもたせられる存在でありたいものです。そして、子供たちにより影響を与えられる大人であるよう、自身をさらに磨いていきたいと念じます。

とことん考え抜いて



「とことん考え抜くということを意識してほしい」

始業式で、わたしは子供たちにそう話しました。「自分を大切にする」観点で物事を判断し行動するようになり、「自分の心を磨く」ことで判断・行動の基をしっかりと築くようになり、「自分を表現する」ことで判断・行動への思いや理由を明確にしていくようになった子供たち。心も体もずいぶん成長してきたと思います。だからこそ、2021年は、考えて、考えて、考え抜くことにチャレンジしてほしいです。

人にとって大事なものは心であり、感性であるとわたしは思っています。自分や相手の心に向き合えることが重要で、自分の気持ちに正直であること、打算や駆け引きのない素直な思いをもつことはとても素敵なことではないでしょうか。そして、自分や相手、自然、もの等、あらゆる事象に対する思いやりの気持ちで行動することが人としてのかけがえのない行為だと考えます。ですから、これまで子供たちには、考えることよりも心の動きのままに行動するよう話してきました。あーだ、こうだと悩んだ挙句に行動しないというはいけません。頭でっかちではダメなのです。

でも、子供たちにとことん考え抜く経験も積ませていく必要があります。現代社会では、はっきりとした正答が存在しないことが多く、自分で考え、決断して進めていくべきことだらけだからです。物事を理詰めで考えることができないと、結果の予測ができずに自分の生き方をしっかりと決めていくこともできません。ですから、自分で決断すべきことが頭の中がこんがらがらぐらゐに考えてみる、周りの声が聞こえないくらいに集中して思考してみる、さんざん迷ったり悩んだりしてみるなど、時には行動に移すことすらできないくらいに頭でっかちになってもらいたいのです。もちろん、思考力はとても重要な学力ですし、日々の授業でいっぱい考える学びをしています。でも、「考えて、考えて、とことん考え抜く」というのは、一つの事象に対してもっともっとこだわって頭を使う、疑問に思うことを自分が納得するまで突き詰めて考えるといった、もっと時間と労力を使った粘り強さや泥臭さが感じられるものなのです。便利すぎる現代において、あまり似つかわしくないことかもしれません。機器を使ってさっと調べたりすることなく、自分自身の頭で勝負する、そんなスマートでない、人間味あふれることを意識してほしいのです。

2学期末に5年生が算数科で平行四辺形の面積の求め方についてじっくり考える学習をしていました。それこそ自分で何とか導き出そうと、家に帰っても考えるなど何日にわたって必死になって考えていました。その姿に「とことん考え抜く」泥臭さや人間味をものすごく感じました。相ノ木っ子には、そんな学びをたくさんたくさんしてほしいなと思います。

作家の夢枕獏さんは、エッセイ集「本日も夢見ごち」で将棋の米長邦雄名人の言葉を紹介しています。

鼻血が出るまでおもいっきり考えてください。

プロ棋士は、たった一手のためにひたすら考え続け、その末に「理詰め」の一手を選びます。それが勝者と敗者の明暗を分けます。子供たちも、これからの人生でたくさん決断・選択が迫られる分岐点に出会うと思います。さんざん悩みながらも、自分で自分の道を決め、切り開いていく人になってほしいです。

行事予定(1月中旬～2月中旬)

1月18日(月) なわとび検定週間(～1/22)
22日(金) 北日本新聞社取材(6年)
27日(水) スキー教室(3～6年)
2月 1日(月) 教育相談週間(～2/8)
4日(木) 中学校体験入学



2月 5日(金) 学習参観・学級懇談会
9日(火) 英語教室(1・4年)
11日(木) 建国記念の日
12日(金) けん玉大会
英語教室(2・3年)

